様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	令和７年度　第２回文化芸術推進審議会
開　催　日　時	午後　１時３０分から 令和８年２月５日(木) 午後　３時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所　３階３０３会議室
出席委員(者)氏名	小松弥生委員、渡辺弘委員、髙田明充委員、廣瀬正子委員
欠席委員(者)氏名	金澤美智子委員
担当課職員職氏名	生涯学習課　油川誠課長、　山崎功二主幹 川島和也主査、小山達也主事
会議次第と会議の公開又は非公開の別	≪会議次第≫ １　開会 ２　あいさつ ３　議事 （１）令和８年度文化芸術事業について （２）令和７年度文化芸術を総合政策として活用した事業について ４　その他 ５　閉会 ≪公開又は非公開の別≫ 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍　聴　者　の　数	０名
会議資料の名称	・次第 ・令和７年度　第２回　文化芸術推進審議会会議資料 ・事業計画補足資料 ・取組事例 ・吉川美南駅東口駅前商業・業務ゾーン（５６街区） 事業者募集（公共施設整備運営事業を含む）実施方針について

会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	渡辺弘委員、廣瀬正子委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	１　開会 **２　あいさつ** 髙田会長あいさつ 会議録署名委員の指名について、渡辺委員、廣瀬委員。 **３　議事** （１）令和８年度文化芸術事業について
髙田会長	・事務局から説明を求める。
事務局	・資料に基づき説明
髙田会長	・質問、意見はあるか。
髙田会長	・市外文化財巡りについて、どのような施設へ行くのか。
事務局	・今年度は秋に野田市を訪問した。野田市には大正時代の建築物が残されており、そうした場所や博物館を訪れ、学芸員からの説明を受けたり、意見交換をし、川の恵みや舟運について改めて学んだ。
髙田会長	・野田市にあるキッコーマン醤油の創業家のお屋敷であった施設を訪れたことがあるが、文化的に参考になる場所で。街の中も古い建物が多い。 ・関心がある鉄道に関連して覚えていることでは、東武野田線は醤油を運ぶためにひかれた鉄道で、流山市の流山鉄道も醤油などを運ぶために作られたものと記憶している。地域の特性による発展の仕方もあると思う。３０周年記念リーフレット事業の説明の中で、武蔵野線の開通によって都市化が進んだという話があったが、そういう歴史から文化につながることもあると思う。
事務局	・野田市は醤油、流山市はみりんが有名である。流山市は白みりんミュージアムを観光部局が立ち上げて、盛んに情報発信し、来館を呼びかけて

	いる。今回は時間の都合で流山市は訪問していないが、参加者にはそれぞれの地域に文化があることを感じてもらえたと思っている。
渡辺副会長	・３０周年記念事業について説明があったが、４月から１年間かけて事業を実施していくのか。
事務局	・生涯学習課だけでなく、全庁で様々な企画を検討しており、それぞれの部門が１年間の中で記念事業を実施していく計画である。
渡辺副会長	・埼玉テレビと共同開催のサーカスはどういうスキームか。
事務局	・市が土地を貸与し、サーカスイベントを開催するというものである。
髙田会長	・差し支えない範囲で、他にどのような企画があるか伺いたい。
事務局	・いま考えている事業では、市内在住の華道家や現代アーティストとのパフォーマンスイベントや、市制施行の時に封入したタイムカプセルを開封するイベントなどを予定している。また、市内を走るバスのラッピングなど、１年間かけて市民の皆様と喜びを分かち合えるようなイベントを企画している。
髙田会長	・１０年前は皆でおにぎりを食べるギネスに挑戦し、承認されたと記憶している。
事務局	・当時、そのイベントを担当しており、当時の世界記録を更新できたということで、非常に記憶に残っている。
小松委員	・参加型のイベントは、参加された方の心に残っていくので良いと思う。
髙田会長	・２０周年記念のときに、川まつりを提案し、江戸川で舟に乗るといったイベントを実施した。
廣瀬委員	・吉川市で使われていた舟と伺った。
髙田会長	・１回目は群馬県の板倉町から和舟を借りてきた。
事務局	・その後の川まつりでは、市内で舟を持ってる方に協力をいただき、吉川の舟を使っていた。実際に乗らせてもらったことがあるが、緊張感があった記憶がある。やはり参加型のイベントは記憶に残り、郷土愛にも繋がっていくので増やしていけると良い。先程のパフォーマンスイベントもできるだけ参加型の実施が検討されている。 ・そのほか、『よしかわ未来「ソウゾウ」プロジェクト』と名付けて、子ども達や若者世代が企画を考え、プレゼンをして、政策として実現していくというような事業も計画しているので、できるだけ多くの市民に参加いただき、盛り上げていければと考えている。
髙田会長	・せっかくの３０周年記念なので、みんなで盛り上げて、形になるものでなくても、思い出として残していけると良い。
	（２）令和７年度文化芸術を総合政策として活用した事業について

髙田会長	・事務局から説明を求める。
事務局	・資料に基づき説明
髙田会長	・質問、意見はあるか。
小松委員	・色々な部局で文化芸術の要素を取り入れ、担当する施策と縦糸と横糸のようになっており、とても良い方向に進んでいると思う。 ・その中で２点伺いたい。まず、「女性と文化芸術」について、座談会の登壇者は、市長以外は全員女性か。
事務局	・市長以外の登壇者は女性である。
小松委員	・男女共同参画ということで言えば、登壇者に男性が複数いる方が一般的ではないかと思った。 ・もう一点は、多文化共生ということで色々と取り組まれているが、国では逆の方向に向かっているように見える。これに関して、自治体としてはどのようにご覧になってるか。
事務局	・本市には国際友好協会という、外国の方が地域の中で一緒に暮らしていけるように活動している団体がある。外国の方も、実際にもう地域の中にいる方達であり、皆が気持ちよく暮らしていくため、日本人も外国の方に対する理解を深めていく必要があり、現実的なこととして捉えていかなければならないと考えている。
廣瀬委員	・広報２月号で多文化共生が特集されており、色々な人に知ってもらう良い機会だと思う。民生委員を務めていた時に、やはりゴミ捨てなどの決め事がうまくいかないということはあった。行政を中心に、地域に密着した生活の仕方を、丁寧に伝えていけば、色々な問題も起こらないのではないかと思う。吉川市は国際友好協会が熱心に活動しており、多文化共生については上手くいってる方じゃないかなと思う。外国の方がいることが当たり前という思いで生活している。
小松委員	・世の中が嫌な方に向かっていると感じていたので、そういった話を伺えて良かった思う。
事務局	・多文化共生、多文化理解を進めていく中では、外国の文化を理解しながらも、日本の文化もしっかり大切にしてもらい、日本の中の外国人の方だという視点で、一緒に暮らしていくことが理想だと思う。 ・小松委員の一点目の質問について、座談会の登壇者に男性が少ないということに関して、このフォーラム自体が女性活躍といった視点の取り組みでもあり、女性の方を登壇者として呼んでいるのだと思われる。
小松委員	・多文化共生に関しては良い方向だなと思った。日々の暮らしの色々な困り事をちゃんと解決しながら、お互いに理解し合うということを各地域でやっていくことが大事だと思う。

	・ 私自身が、ある組織でジェンダー問題に取り組み、解決しようと思ったときに、女性達で色々な動きをしようとしたが、途中から、これは女性だけでやるからダメなんだと思い、男性も巻き込んでパネルディスカッションなどを実施した。男性に入ってもらったことで男性の理解が進んだということがあったためお聞きしたが、女性だけで集まって話し合うこともあるし、それを持ち出して男性と話し合うというように、色々なステージがあって良いと思う。
渡辺副会長	・女性をことさら強調することが良いのか難しい。女性を強調することによって、逆の効果もあるので気を付けなければいけないと思う。
事務局	・市民参加推進課には、そうした意見があったことを伝える。
	４　その他
廣瀬委員	・中央公民館で小中学生の作品が展示されている。発想が豊かで素晴らしい作品ばかりなので、中央公民館だけでなく、おあしすなどでも展示すれば、色々な地域の方に見てもらえて良いのではないか。
事務局	・廣瀬委員のご意見に関連して、市立図書館のブラウジングコーナーで教育センターを利用している児童生徒の作品展示を行なっているので、鑑賞して行って欲しい。
廣瀬委員	・小学校４年生の児童が、お米の将来のことを考えた作品が図書館に展示されている。小学生でこんなに深く考えていることにとても驚かされた。
事務局	・時代の流れを捉えた作品で、図書館を使った調べる学習コンクールに出品し、全国コンクールで優秀賞・ＮＨＫ賞に選ばれている。図書館の職員はもちろん、市を上げて喜んでいる。
髙田会長	・中学校の部活動の地域展開の検討が進められているが、小中学校の作品展を見た時に、部活動という枠組みにとらわれず、子ども達が興味を示した文化活動を行なえる場があると良いと思った。自分も含め、地域で活動している中で、受け皿となっていけると良いのではないかなと思っている。
事務局	・部活動の地域展開について検討する協議会に参加しているが、有識者の先生から、文化部を地域で受け入れていくことが難しいということであれば、美術から音楽までその日の活動を自分で選んで良いという総合文化部という形で、地域に展開してる事例があると聞き、そういうやり方も魅力的だと感じた。 ・吉川市では文化芸術施策を広く展開しているが、地域展開の機会を捉えて、文化芸術に幅広く触れることで、また違う分野への興味関心の発見に繋がっていくのではないかと感じている。

	・吉川市の文化芸術では演劇に力を入れているが、市内の中学校には演劇部がないので、地域展開をした際に、演劇にも興味を持ってもらえれば良いと考えている。
渡辺副会長	・高校でも文化部が少なくなっている。 高校には演劇部があって、全国大会もあるが、演劇というと、敷居が高く思われてしまう。小学校ではコミュニケーション教育として取り入れている自治体もある。演劇というと構えられてしまうが、コミュニケーション教育としてやっていくと、子ども達は話さなければいけないので、どうやって伝えるか考えるようになり、すごく効果があると聞いている。
小松委員	・部活動というより、教育課程に含めているのだろう。
渡辺副会長	・部活動にすると指導者の問題もあるので、中学校に演劇部がないというのは、仕方ない部分があると思う。教育課程に入れることは日本の場合はまだ難しいと思っている。
事務局	・学習指導要領改訂の度に議論にはなるようで、演劇教育みたいなものをカリキュラムにという意見もあるが、まだその段階に行ってないようである。
小松委員	・そこは自治体が選べばできることではある。ただ、やはり指導者が学校の中にいるか、あるいは外から適切な人を連れてくることができるかという点は課題になるだろう。
廣瀬委員	・小学校区毎に実施されていた子どもの体験教室が縮小していると聞いた。以前は、こうした場で異年齢交流があり、年上の子が面倒を見てあげていた。先日、放課後子ども教室の中で生け花体験を行なったが、道具の貸し借りといった些細なきっかけで、子ども同士が言い争いになった。その場は生涯学習課が収めてくれたが、子ども達には良い経験になるし、こういう風にしてもらったから、今度は自分がこうしてあげようと、考えるきっかけになる。そういう場があると良いと思う。
事務局	・保護者や実行委員の方の負担もあって、スタッフの確保が難しかったり、学校の理解もあって施設を使わせてもらっているが、学校側でも先生の働き方の部分で制限がかかってきているという実情はある。 ・廣瀬委員がおっしゃった教育的な部分に関しては、部活動の地域展開でも必要になってくる。指導者には専門分野の技術指導だけではなく、人間的な教育も求められてくる。
小松委員	・そういう場面では、市役所の方が引き取るのではなく、指導に来ている皆さんで解決ができると良い。また、学校の施設面は課題であると思う。丸ごと貸し出せる区切られた区画がないと、先生が来なければいけなくなる。区切られた施設であれば、丸ごと地域の方に貸して、利用する方

	の責任で活動してもらうことができる。
	・指導者の方には、そうしたスキルも求められるので、 研修を受けてもらう必要があると思う。研修プログラムなどの条件整備については、県などに要望しても良いと思う。
事務局	・研修プログラムについては、一市町村では難しいので、先生方と一緒になって、県の方で作ってもらえると良いと思う。
小松委員	・学校それぞれの方針もあるので、学校の方針も理解し、施設の特性もしっかり説明してから始めることが必要だと思う。
渡辺副会長	・せっかくなので吉川美南駅前公共施設について、見通しを伺う。
事務局	・今後の運営については生涯学習課が所管していくが、その前の民間事業者との対話については政策室が担当している。政策室からは、興味を示している事業者もいると聞いている。人件費や建設費が高騰しているので、大きな施設が建てられるかというと難しいと思うが、魅力ある施設を目指していきたい。
髙田会長	・展示ギャラリーが整備された際には、子ども達の発表の機会があると、子ども達の糧になると思う。
小松委員	・ＤＢＯ方式とはどういうものか。
事務局	・デザイン（D）ビルド（B）オペレーション（O）を一括で性能発注する方式で、建物に求める性能等に関して、市が要求水準と呼ばれるものを示し、公募型プロポーザルという形で、事業者から提案を受け、候補者を選定し、調整をしながら建てていくというものである。資金は市が調達することになるが、財政負担軽減策も含めて、提案の中で審査をすることになる。
	・権利関係の問題から、１つの建物の中に民間施設と公共施設を複合させるのはトレンドではないと聞いている。区画としては一体だが、建物は分けて建てていく中で、人の流れを連携していくというプランが多くなってくると思っている。
	・公共施設の中身自体は、ホールや情報メディアセンターといった人が集まる施設なので、できれば連携できる商業施設のようなものが建つと良いという思いで募集しようと考えている。
渡辺副会長	・公共施設と民間施設の顔が違うと、お客さんも「えっ」という感じになってしまうので、商業施設側をうまく導入してくれないと難しい。また、建設費の高騰で不調になっている施設も多くある。
事務局	・不調のリスクは認識しており、できるだけ早く動き出そうという考えている。今後の経済状況について、建設費が右肩上がりということは変わらない中で、やはり工面できる財源にも限界があるため、できれば早く

	やりたいという面もある。
渡辺副会長	・関東エリアはまだ良いが、地方は特に厳しい状況である。徳島県がホールを建てるとなった際に、二回とも不調で手が上がらず、頭を悩ませている。
小松委員	・建てた後にどれだけ貸して、回収できるかということもある。国立ラグビー場を建てているが、３６５日のうち国立で使うのは６５日で、残りの３００日は貸し出すことで、その収入で運営ができるだろうと見込んでいる。建てた後にどう使うかということをセットで考えると良いと聞いたことがある。
事務局	・使い方に関しては、多目的なホールにして、できるだけ市民の方に使ってもらうという議論から入ったが、色々な意見を聞くと、ある程度専門性のあるホールの方が選ばれるということもあり、どう折り合いをつけるかが大事になる。 ・少し前は平土間にできるフラットなホールが流行っていたが、時代が変わってきて、いわゆる劇場と呼ばれるような固定席でゆったり鑑賞できる空間を求める声もあるので、そういったところも含めて検討中である。
渡辺副会長	・その場合もフラットが良いという意見と、両方の意見が絶対出てくる。フラットにする場合、客席はグラグラする。ロールバックで出したり、技術は進んでいるが、やはり不安定ではある。そのため、固定にして、前の方を少し自由にできるという流れになっているが、問題はそれを職員がやらなければいけないという点である。運営のことを考えないで作ってしまうと、設備が最新であればあるほど、劇場側の管理が必要になる。最新のものを使うとなると、劇場のスタッフがやってあげないとできない。
廣瀬委員	・中央公民館の照明も同様で、専門性の高い設備だと人の力を借りないとできないため、勿体ないと感じている。
事務局	・文化施設の関係では、いわゆる小屋つき、準小屋つきといって、技術職員がどこまでホールにいるかについては、全国で色々な手法が取られている。中央公民館のホールについては、委託で運営していて準小屋つきに近い。設備が古いため、扱える技術者が限られることで稼働率が上がっていないということもあると思っている。 ・新しい施設を建てる時に、中央公民館のホールとどう使い分けていくかも並行して考えていきたいと思っている。技術者を丸抱えするということは、職員として迎えることになり、大きな税金を使うことになるので、トータル的なコストを見ながら判断をしていきたい。
髙田会長	・松伏町のエローラでは、専門技術者の経費は相当かかっているのか。

事務局	・委託で運営していると聞いているが、専門に近い職員もいるようなので、職員がどこまで対応しているかで変わってくると思う。越谷市や三郷市の文化施設では業者が入っているようだが、エリア毎に技術の方がいて、単館で技術者を抱えるのではなくて、エリアの中で技術者が活躍する方法もあると伺っている。 **5　閉会** 渡辺副会長よりあいさつ

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和８年３月１６日

署名委員　渡辺　弘（自署）　　署名委員　廣瀬　正子（自署）